

山中湖での夏合宿を振り返って

<2009年夏合宿の記録>

総監督

大津保男

夏休み直後が恒例のBJの山中湖夏合宿は、梅雨明けとの関係で微妙な時期のため、いつも天気予報にはやきもきする。だが、今年は曇りがちなながらも雨の心配はなさそうで、44人（6年生11人、5年生12人、4年生15人、3年生6人）の子どもたちは、多くのご家族に見送られ、貸切バスで元気に出発した。



以前は、車酔い予防と車内騒音防止のため、車中でのゲームなど色々と企画をしたこともあるが、山中湖は割合と近い場所でもあり、最近はあまり手がかからないのは幸いである。海の日が間近な夏休み最初の週末ということに加え、高速道路料金の割引制度による渋滞が心配されたが、予想ほどではないものの、結果的には昨年までに比べると到着が少し遅くなったのは事実だ。

今回の一番の心配は、かなり前から予定していた山中湖交流プラザ「きらら」のグラウンドが直前になって使えなくなったことである。ある意味、合宿の目玉でもある、「宿舎に近く、設備の整った、人工芝の、きれいで広いグラウンド」なのだが、他のイベント等によりまったく使えず、逆に遠く離れたグラウンドで、しかもギリギリまで情報不足のため、練習や試合の計画に悩んだことであろう。

だが、そんな中で唯一助かったのは、事前にBJホームページを通じて東京都八王子市の「八王子七小」のチームから練習試合の申し込みを受けており、その関連で三鷹市の「FC北野」さんも含め、宿舎からそう遠くない両チームのグラウンドで、各学年とも練習試合の機会ができたことである。

さて、初日はいつものとおり、バスから広間などに荷物を運び込み、一段落したところでご主人への挨拶、そして部屋割り、諸注意、今回のスローガンの確認、チャレンジシートの提出など一連のオリエンテーションを済ませてから、昼食までは自由時間の一休みである。

オンザピッチ・オフザピッチを問わず、チームとして大切な「感じる」「考える」「行動する」という一連の動作、これを今年の合宿テーマとしている。

こうした流れるような連携プレーから生まれるナイスプレーや善行は、見ている人にも感動を与えるもので、今回の『カン（感）』・『カン（考）』・『ドウ（動）』のキャッチフレーズは、2倍の感動（カンドウ）をもたらすという、いささかこじつけの理由である。

子どもたちに理解されるかどうかはともかく、そういう視点で指導に関わってもらいということで、参加している各学年コーチ陣の咀嚼と腕の見せどころに期待ということだ。

昼食後は、車で10分ほどの距離のグラウンドに向けて、少し早めに出発となり、車でのピストン輸送のほかウォーミングアップを兼ねて一部は徒歩でスタートである。到着後にミニゲームでクラス分けをしてテーマ練習に移ったのは例年どおりで、これは普段接していない学年の子どもにも目を向け、コーチ陣にみんなの名前、性格、プレースタイルなどを覚えてもらうのが目的の一つというところを理解いただきたい。

恒例の「班別ミニ駅伝大会」は、もう少し山の中だと面白いコースが設定できるのだが、役場の近くとあって、交通量の多い道路が行き先を遮断しているため、コース選定が難しい。普段BJオリンピックで走っている距離と遜色はないが、ダラダラの長い坂や足場の悪いところもある。こちらの方は、全員が完走し、班

としての一体感が生まれるようにという、合宿スタートに当たっての大きな目的の一つでもある。

なお、去年同様、コーチ陣にも全員走ってもらおうかとも思ったが、顔色を伺うと目が何かを訴えているような人が何人かいたため、泣く泣く慈悲の心で最低限の人数合わせにとどめた。

入浴と夕食の後のミーティング、その後は大人限定のミーティングということで、深夜や朝まで及ぶのは覚悟のこと。だが、“早起きある爺”としては、日頃の睡眠サイクルが狂ってしまうので、残念ながら少し早めに失礼して、明日に備えることとした。

=====

翌朝の散歩での行き先はいつもの湖畔で、富士山もそこそこ姿を現していたが、あまりにも花が鮮やかだったため、班別記念写真の撮影会では、いつもの場所を離れて背景に花も添えることとした。



二日目の午前中は、3箇所のグラウンドに別れての練習試合であり、結果はともかくも、初めて対戦する相手との試合は、子どもたちにとってもそれなりに刺激があり新鮮なことだろう。

午後からの練習時間には、子ども同士の試合だけでなく、コーチ陣との試合も行ったが、気のせいかもしれない伸び伸びとプレーしていた感じがする。普段、ポジションを決めて学年中心で行っている試合に比べ、決してスマートではないものの、局面でのプレーは、学年や経験の異なる者がいたり、大人を相手とした時の方が、真剣味が増して面白いものだ。

多くのサポーターが厚木から駆けつけてくれたこの日は、日曜日とあって道路が非常に渋滞している様子。帰路はピストン輸送の車の到着が危ういという想定で、高学年は宿舎まで歩き通す覚悟でスタートした。

荷物を背負って一列になって進む姿は、さながら自衛隊の訓練のようで、脱落者が出ないように気にしつつ、遠い道のりだが行けるところまで行こうという、諦めと悲壮感がバネになって、みんなが一つに結ばれた気がする。

だが、徐々に薄暗くなり、途中でポツリポツリと雨の気配もある中、路上を見慣れた車が通り過ぎ、すぐに停まってくれたときは、ある意味ホッとした。



今日はミーティングのあとに恒例のビンゴ大会が控えており、宿舎での生活も初日より慣れてきているため、少々引き締めの意味もあって正座の試練を付け加えてみた。ビンゴのレクリエーションに続いて、残る時間で突然の余興を振ってみたが、予想通りの子どもが空気を読んでリードしてくれ、内容はともかくも、何とか場を持たせてくれたのには感謝したい。

=====

そして三日目、皮肉なことに最終日の天気がこれまでで最も良く、朝の散歩は気分を変えて、湖の向こうにくっきりと浮かぶ富士山を眺められる「きらら」周辺の散策とした。宿舎への帰り道、否応なく目に入る人工芝グラウンド「ぴっち」を通り過ぎる時には、「あ〜あ、ここで練習させたかったな・・・。」という気持ちが再び燃え上がってきたのは当然のことだろう。

とはいえ現実には厳しい。この悔しさをバネに、朝食後の最後の練習には、元気な高学年の何人かをそそのかし、再びあのグラウンドに向けての行軍を選択することとした。途中でピックアップしてもらい、すでに到着しているみんなと合流して、予定どおり合宿の仕上げとしての「班別対抗試合」をすることができた。

今回は、4年生のMくんが喘息のため初日の夜に病院へ行き、残念ながら翌日厚木に戻ることになり、また、6年生のYくんが歯痛を訴え続けたこと位が、健康管理上のハプニングだが、引率父母等の適切な対応に助けられた。何と云ってもこうした団体引率で気になるのは、往復の交通事故や期間中の怪我・病気であり、次に天候、最後に成果という順だろう。そういう点では、今年の合宿は「まあまあ」という評価になるだろう。



期間中、子どもたちの動向に色々と気を配っていただいた引率のお母さん方や、熱心に活動してくれたコーチ陣、そして応援に駆けつけてくれた皆さん方のおかげで、2009年山中湖夏合宿を無事終えることができたことに、心から感謝、感謝。